

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4070901238
法人名	アート園 有限会社
事業所名	グループホーム アート園
所在地 (電話番号)	福岡市博多区浦田1丁目12番12号 (電 話) 092 - 503 - 1155

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年9月26日	評価確定日	平成21年11月24日

【情報提供票より】(2009年9月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	28 人	常勤 20 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 15.5 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨コンクリート 造り
	4 階建ての 2 階 ~ 4 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000、36,000 円		その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	(有) (105,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (円) (無)		有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(9 月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	7 名	女性	20 名
要介護1	6 名	要介護2	11 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低 66.7 歳	最高 94.6 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	永野病院、林整形外科、敬愛歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームアート園は、閑静な住宅地の中にあり3ユニットを有する事業所である。隣接して公園・公民館・スーパー等があり、散歩や買い物、「ふれあいサロン」への参加等、戸外で活動する機会も多く、心身の活性化により日々の暮らしに潤いを与えている。今夏の水害時には地域住民の支援・協力を得て、はからずも絆を深めた感もあるが、これも日頃からの取り組みの成果とも言える。ここに事業所を、より本人本位の生活空間とすべく取り組んでいることと、併せて、地域資源を主体的に活用することにより、地域とは、決して「お客さん」ではなく、「地域の一員」としての「普段着の付き合い」を目指していることがうかがわれる。客観的な自己評価作成により、真摯に自らの課題を抽出し取り組んでいこうとする姿勢からは、更なる可能性を予感させる。今後、センター方式をひとつの切り口として、上手に活用しながら、多方面への可能性の拡がり、入居者一人ひとりへの理解の深まりを、大いに期待させる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 各ユニットから選出された「外部評価委員」を中心に、職員間で具体的な取り組みがなされている。中でも、改善項目別に優先順位をつけ、進行手順、注意点等が詳細に記された「改善計画シート」の作成は、特筆に値する。前年度の指摘事項や、自らが課題として捉えていることに真摯に向き合い、具体的な成果を上げている
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 各ユニットごとに前回評価結果と真摯に向き合い、自己の取り組みを厳しく検証し、課題を見出そうとする誠実な姿勢が文面にあふれている。これは「外部評価」の主旨が、運営者や管理者だけでなく、職員全体で共有されている証と思われる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2ヶ月に1回開催されており、参加者も、自治会長、自治協議会代表、民生委員、老人会会長、地域包括支援センター職員、家族代表等、多岐にわたる。理念や活動・運営状況、外部評価結果等を報告している。また本会議を契機として、隣接する公民館に入居者が利用しやすいようにと、スロープや、手すり、洋式トイレが設置される等の効果が上がっている。議事録についても、閲覧しやすいよう事務所に掛けている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族会を2ヶ月に1回開催したり、苦情箱・苦情係を設置する等、家族の意見を運営に反映する仕組みが作られている。苦情があった場合は各ユニットで話し合い、改善方法を文書化し、その後のケアに活かせるよう具体的に取り組んでいる。また来訪時には、積極的に意見や要望を伺うよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事(公園清掃、敬老会、保育園バザー等)に積極的に参加したり、ふれあいサロンの定期的参加や郵便局での入居者作品の展示等、地域資源を主体的に活用することで、「お客さん」ではなく「地域の一員」として、地域住民との親睦を深めている。その証に、七夕行事には笹を、水害時にはおにぎりの差し入れ等が地域住民よりなされている。また中学生の体験学習受け入れや、小学校が取り組んでいる古紙・アルミ缶回収、ベルマーク集め等にも協力している。この度の予期せぬ水害で、図らずも地域住民との絆を深めた感もあるが、これも日ごろからの取り組みの成果とも言える。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合いを行い、事業所独自の理念を作り上げている。「園の基本姿勢」、「ホーム理念」、「介護理念」の3本柱には、地域密着型サービスの主旨を踏まえた内容が明確に謳われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を単に掲示することで終わらせるのではなく、地域資源を積極的に活用しながら、日常的に理念の実現に努めている。また文言について再検討を行なう中で、職員間で内容の再確認と共有が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(公園清掃、敬老会、保育園バザー等)に積極的に参加したり、ふれあいサロンの定期的参加や、郵便局での入居者作品の展示等、地域資源を主体的に活用することで、「お客さん」ではなく、「地域の一員」として、地域住民との親睦を深めている。七夕行事には笹を、水害時にはおにぎりの差し入れ等が地域住民よりなされている。また中学生の体験学習受け入れや、小学校が取り組んでいる古紙・アルミ缶回収、ベルマーク集め等にも協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットから選出された「外部評価委員」を中心に、職員間で具体的な取り組みがなされている。中でも、改善項目別に優先順位をつけ、進行手順、注意点等が詳細に記された「改善計画シート」の作成は、特筆に価する。前年度の指摘事項や、自らが課題として捉えていることに真摯に向き合い、具体的な成果を上げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されており、自治会長、自治協議会代表、民生委員、老人会会長、地域包括支援センター職員、家族代表等、多岐にわたる。理念や活動・運営状況、外部評価結果等を報告している。本会議を契機として隣接する公民館に、入居者が利用しやすいようにとスロープや手すり、洋式トイレが設置される等の効果が上がっている。議事録についても、閲覧しやすいよう事務所に掛けられている。		

グループホーム アート園

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型グループホームとしての活動のあり方や、災害時の対応等、疑問点や取り組んでいることに対する質問・助言を、積極的に市担当者に求め、関係作りに努めていることが記録からもうかがえる。また地域包括支援センターが近くに移動したことにより、より頻繁に情報交換や相談等で利用している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	園内に「教育委員会」を設置し、定期的に勉強会を実施する等、組織的に取り組んでいる。特に日常生活自立支援事業や成年後見制度については、年に1度はテーマとして取り上げ、職員間で周知に努めている。また勉強会で使用した資料は、ファイル化し、各フロアで自由に閲覧出来るようになっている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な報告は2ヶ月に1度、「アート園便り」で行い、その様式は、行事等のスナップ写真に、一人ひとりの暮らしぶりを始め、職員の異動等のお知らせを職員が記入するというもので、「個別性」が尊重されている。本人が直筆で書くこともある。金銭管理については、毎月明細書を送付し、確認印をいただいている。また体調等で変化が生じた場合等、必要に応じて、電話連絡を行なっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を2ヶ月に1回、開催したり、苦情箱・苦情係を設置する等、家族の意見を運営に反映するしくみは作られている。苦情があった場合は、各ユニットで話し合い、改善方法を文書化し、その後のケアに活かせるよう具体的に取り組んでいる。また来訪時には、積極的に意見や要望を伺うよう努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、職員は「馴染みの関係」の大切さを理解し、ユニット間の職員異動は行わないようにしている。止むを得ない場合は、事前に異動先を訪れ、自己紹介や手伝いを行う、細やかな申し送りを受ける等、入居者のダメージを最小限に防ぐよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用にあたっては、性別や年齢を理由に採用対象から排除することはない。実際に、幅広い年齢層の職員が勤務しており、男性、女性の偏りもみられない。採用後、外部研修や内部研修が定期的の実施され、職員一人ひとりの意向や能力に応じた配慮や計画性がうかがえる。また全職員が「認知症介護実践者研修」を受講出来るよう順次取組まれている。		

グループホーム アート園

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	「人権」をテーマとする外部研修への参加、及び伝達研修を実施するとともに、事業所内の勉強会においても、年に1回はテーマとして取り上げ、職員への啓発、周知に努めている。また10項目からなる「利用者の権利」について明記されたカードを、パンフレットに添える等、人権教育・啓発に対する具体的な取り組みを行っていることがうかがえる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自に設置された「教育委員会」を中心に、年間を通して計画的に、勉強会、及び研修への参加を実施している。また介護事業者協議会に加盟し、そこで開催される研修へも積極的に参加し、職員のステップアップを図っている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	博多区内のGH間で独自のネットワーク作りを行い、相互訪問や情報交換等を積極的に行い、親睦を深めている。何よりも、現場の職員レベルでの交流が出来ており、現在、食事会を計画中である。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初に、施設長が自宅や病院を訪問し、本人や家族の意向、状態、不安な点等を把握している。それを踏まえた上で、本人と家族に見学を行い、フロアーにて入居者や職員と、一緒にお茶を飲んだり、雑談をしたり、時に食事を勧めながら、場の雰囲気を体感し、次第に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎朝の掃除を一緒に行ったり、野菜作りを教わったり、レクリエーション時には、囲碁や筑前琵琶の先生を務めてもらったりと、入居者の得意分野に学ぶ等、日常生活で、共に時間を過ごす中で、学びあい、支えあう関係作りに努めている。家族に発送する便りには、職員だけでなく、入居者も筆を持つこともある。		

グループホーム アート園

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントツールに、センター方式を使用し、一人ひとりの思いや希望、生活歴、趣味の把握を試みている。併せて、困難な場合には、家族からの情報や普段の暮らしぶり、日常会話の中から、思いや意向を汲み取るよう努め、本人本位の検討を行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や要望を始め、センター方式から抽出された情報、さらには、職員が日々のかかわりで気付いたことを書き留めた「気付きノート」等をもとに、職員間で話し合いを行い、本人本位の計画を作成している。	○	短期目標が職員目線であったり、長期目標が不明確な計画書が、いくつか見受けられた。センター方式を使いこなし、一層の本人本位の計画書の作成を期待したい。
19	39	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月ごとに、職員間で話し合いをもち、評価(見直し)を行なっている。これにより、状態の変化にも、より早く対応出来、本人の現状に即した計画の変更、及び支援に努めていることがうかがえる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の意向に応じて、希望の医療機関への受診同行を始め、リハビリ受診、買物、理美容室利用等を、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の面接時に、事業所の協力医療機関、及び受診支援について、不安のないよう説明するとともに、かかりつけ医の情報もうかがい、本人の選択に委ねている。また緊急時には、協力医療機関と相談し、総合病院への受診が可能な体制をとっている。		

グループホーム アート園

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前の面接時に、本人・家族から重度化や終末期に向けての意向をうかがうとともに、事業所の支援体制について、説明を行なっている。これを踏まえ、本人の思いや、意向を尊重しながら、家族、医師、職員と話し合いを重ね、方針を共有しながら、柔軟に対応している。またホスピス病棟を有する医療機関との連携があり、これまでもターミナルケアの実績がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	パンフレットに添えたカードには、「利用者の権利」と題し、プライバシーについて、その重要性が明確に謳われている。また職員が主体となって、「言葉かけ」に関する勉強会を実施しており、その実施記録から、日常的にプライバシーの確保の徹底に取り組んでいることがうかがえる。その他、個人記録の保管や、入居者の作品展示等についても配慮を行なっている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	暮らしの中で、時間の制限や職員都合の日課等はなく、一人ひとりのペースや生活習慣、その日の気分、体調に応じた暮らし方を尊重している。希望に応じて、散歩や、買物、趣味の時間を設けている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや希望に応じた食事を提供している。その証に3ユニット、全て異なる献立である。食材の買出しや、調理や配膳等の準備、食器洗い等の片付けは、出来る範囲で、入居者、職員が共に行なっている。また食事時間は、職員も同席し、同じものを食べ、会話も弾み、和やかな空間が生まれている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日、時間帯は決まっているが、その日の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。一人ひとりの好みの湯加減で、気持ち良くゆったり出来るよう努めている。希望に応じて、仲の良い方同士での入浴をしたり、職員と一緒に歌を歌う等、楽しんでもらえるよう支援している。		

グループホーム アート園

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の意向を大切に、日常的に役割や得意分野を発揮出来る機会を設けている。具体的には、掃除や調理、片付け、洗濯物干し等の家事や、書道展への作品出展、園芸、レクリエーション時の囲碁の先生等が上げられる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望や、その日の体調に応じて、散歩や買物等、外出の機会の拡大に努めている。歩行困難な方についても、車イスを利用することで、要望に応じている。また家族来訪時には、一緒に出掛けられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者・職員は、施錠することの弊害を理解し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。安全面の配慮から、玄関は夜間帯のみ施錠している。入居者を抑制するのではなく、見守りを徹底し、出掛けようとする利用者には職員がさりげなく同行する等、自由な暮らしへの配慮を行なっている。またリスクマネジメントの観点から、迷った時の対策として、近隣に案内を掲示したり、事前に警察にも説明を行い、協力を仰いでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「重要事項説明書」に非常災害時の対策について、年に2回昼夜を想定した訓練の実施や防災設備等具体的に謳い、実際消防署の協力を得ながら、入居者も参加しての訓練を実施している。警察の協力のもと、防災マップを作成したり、民生員の協力を得て、地域への協力を依頼する等の働きかけを行なっている。実際に本年度水害に見舞われたが、その際地域の方から、おにぎりの差し入れを受ける等の効果も見られる。	○	本年、実際に水害に見舞われたことにより、具体的な対策や課題が明確になったことと思われる。この貴重な体験を教訓に、現状に甘んじることなく、よりレベルの高い現実的、かつ効果的なマニュアルの作成、及び訓練の実施を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量については、毎日記録し、摂取量の把握や、職員間での共有を行い、十分量の確保、及び各自の体調の把握に努めている。また食が進むように、入居者の好みに応じた献立の作成や、一人ひとりの状態に合わせてとろみをつけたり、刻み食での提供等の工夫を行なっている。		

グループホーム アート園

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり	ユニットごとに、入居者の好みや状態が反映された空間作りがなされている。食堂・談話室からは、生活空間としての程よい雑然さを感じられるとともに、各居室にかけられた暖簾や、風呂・トイレを示す掲示物、季節の花が飾られたりする様からも、少しでも施設色を廃し、生活空間と調和するような職員の知恵と配慮がうかがえる。また車イス対応のトイレも完備されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室には、使い慣れた調度品や冷蔵庫、仏壇、趣味のもの等が見られ、本人の意向を反映した空間作りがなされていることが確認出来る。また編物や書籍、信仰を示すものが散見され、一人ひとりの趣味や信仰に対して、具体的に尊重していることが実感出来た。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			